



組長就任ごあいさつ

札幌組組長 野口宗英

寒暖定まらぬ毎日ですが皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。日頃より組運営に際しご協力賜りお礼申し上げます。昨年12月に退任された海野前組長の後を受け継ぎ、不安の中での3ヶ月でありましたが組内の皆様のご協力のおかげで16年度が終わろうとしています。

16年度は「譲持口数調整」に6ヶ月の時間をかけ、組内の皆様と審議、調整を重ね意見の集約のなかで札幌組としての暫定的調整口数を申告しました。しかし教区内、組内における総局への不信感は拭えないことでもあります。そのためにも「組調整委員会」を発足しこれから2ヶ年以内の再調整を図ることとあります。

基幹運動推進委員会の各事業活動もそれぞれの部で行われてきましたが課題もあります。4月からは委員任期4年の折り返しではありますが、各部の推進事業活動を進めていくなかで各部連携しての研修会開催等、回数より充実した内容で門信徒の方々が「参加してよかった」と喜んでいただけるような事業を目指したいものです。そのためには委員の皆さんが自分が参加したいと思えるような研修会、企画準備をする際も部員一人一人がきちんと役割分担をすることが非常に大切だと感じます。

中央基幹運動推進相談員の方がある雑誌に書かれていました。「忙しい」。よく使う言葉です。この文字は二文字からなっています。「りっしん編」と「亡」くす。これは心+亡、心を亡くし、心を亡（ほろぼし）、心を下に持ってくると「忘」という字になります。

私達は生活が忙しすぎて心を亡くし、心を亡（ほろぼし）、人間としての心を忘れがちです。

札幌組の仲間が目と目を交わすだけでわかりあえるよう願うことです。

一年を振り返って

青少年部

青少年部は事業として児童念仏奉仕団で本山に参拝させていただきました。残念ながら予定していました事業すべてを終わらせる事が出来ませんでした。組としての児童念仏奉仕は隔年でも続けていくべきものだと思います。

【事業報告】 児童念仏奉仕団

婦人部

今年度、特に印象に残っております活動は、仏婦連盟と寺婦合同での本願寺小樽別院 本堂改築御本尊御遷仏法要に参拝できたことまた、寺族婦人会創立 40 周年記念事業をお手伝いして、会員のかたがたとの熱意によりすばらしい事業が遂行されたことです。次年度は全道仏婦大会が控えております。皆様との連携のもと婦人会活動に精進させていただきます。

平成 16 年度 札幌組仏教婦人会連盟一泊研修会

日時 平成 16 年 12 月 13 日 (月) ~ 14 日 (火)

会場 定山溪ビューホテル

講師 本願寺布教使 大阪教区 島下組 大光寺住職 清岡隆文

恒例となりました「札幌組仏教婦人会連盟一泊研修会」が定山溪ビューホテルを会場に 23 ヶ寺 122 名の各寺仏教婦人会の参加により開催されました。

午後 2 時 30 分開会に続き勤行、そして札幌組組長野口宗英氏挨拶の後、「限りあるいのち」という講題で、清岡隆文先生より講演を頂きました。その後 10 人程度のグループに分かれ分科会にて「限りあるいのち」各寺の仏教活動について幅広く話し合いをされました。

一日目の研修が終わり、懇親会では、寺族婦人会若坊守なでしこ会の楽しい踊りや、会場一杯を使った「本願寺音頭」皆で踊り、あっという間の楽しいひとときを過ごしました。

二日目は、前日の分科会報告書により、清岡隆文先生にまとめを頂き 2 日にわたる研修会を終了致しました。

今後も参加された方々と共に協力しあいながら、より良い研修会になる様取り組んでいきたいと思っております。

【事業報告】 仏婦連盟研修会、婦人会連盟・寺族婦人会合同研修会、仏婦連盟一泊研修会、報恩講参拝



僧侶部

7 月に僧研ノート 2004 年度「反差別の教学とは」の問題提起より、班別討議も盛り込んで実施できましたことは、教区内における連続差別事件を念めて、今なすべき僧侶としての意識改革の必要性を痛感した貴重な時間となりました。今後も部として学びや取り組みを進めたいと思います。

【事業報告】 僧侶研修会・「いま、僧侶に求められているもの」・「勤式作法について」
「僧侶研修会」が開催されました

去る2月4日札幌ロイヤルホテルを会場に、平成16年度札幌組「僧侶研修会」が組内23ヶ寺46名という、多くの参加を得て開催されました。

この研修会のご講師は、昨年度に引き続きご本山より式務部々長の俵正見師にご出講いただき、「勤式作法について」というテーマのもと「法要について・法要のあり方」を通して、あらためて僧侶としての心構えに指針を与えるご講義をいただきました。ご講師は「莊嚴」「法衣」「気持ち」「作法」の4点を整えることがもっとも重要であると申されており、法要にいとむ僧侶の意識の大切さを痛感いたしました。引き続き、新年会が行われました。



門信徒部

門徒総代研修会の御講師北島典生師は、講題「お念仏のこころ」について、大変細やかに阿弥陀如来の本願のみ教えや、又親鸞聖人がお示し下さったお念仏によって生かされる喜びを解り易くお話いただき、参加総代の皆様にも平素聞く事の出来無かった面を納得されたお顔が方々で見られました。

良き師にあう事は良き教えを聞かせて頂ける事を実感致しました。此度、札幌組45ヶ寺中22ヶ寺の参加で約半数です。何とか全ヶ寺参加を望んで止みません。

組内の皆様との御協力のもとに門信徒部活動も、より充実される様前進させて頂きたく存じます。

【事業報告】 ・総代会総会・門信徒総代研修会

連研部

昨年1月に始まりました第13期門徒推進委員養成連続講座の第3回講座から第12回講座(12回講座は3月26日予定)までの10回の講座と、ご欠席された方のための補講を3回行いました。テーマや講師など詳細は紙面の関係上省略させていただきます。受講生は42名でそのうち修了されるのが37名の予定です。修了式は3月26日第12回が修了してから札幌別院本堂にて行います。受講生及びス

タッフの皆さん、ご苦労様でした。又12月には教区主催の門徒推進委員及び連研履修者の研修会及び集いを札幌別院にて行いました。

【事業報告】 ・第13期連研の開催、教区連研履修者・門徒推進員研修会

広報伝道部

年2回発行の組報はカラー印刷、掲載記事も定着した。自由な投稿記事がないので是非この機に投稿下さい。カレンダー法語解説に好意的評価を得ている。ホームページのアクセスの場と内容面の充実がなかなか難しいのが現実です。

【事業報告】

・組報の発行、聴聞の心得プレート作成、ホームページの更新

教 区 会 報 告

(承認議案 第1号 賦課金維持口数決定の件)

北海道教区における維持口数を 35,846 口とすることに対し、出席者全員の承認を得る。

(同意案件第1号 地方選挙管理委員会予備委員の補充について教区会の同意を求める件)

予備委員より辞職願が提出されたので、後任について出席者全員の同意を得る。

退任者 山階 輝雄氏(後志組 東林寺)

就任者 草薙 弘之氏(札幌組 光願寺)

※任期…前任者の残任期間 明年3月末日まで

ちょっと
読んで
みようか
この
一冊

「個人情報保護」

定価 500円+税

岡村久通、鈴木正朝 著作 発行所 日本経済新聞社

ある日突然、思いがけないところからDMが送られてくる。情報社会といわれて久しいが、納得いかない場合が珍しくない状況です。昨年、泥濘する情報に漏洩企業が、謝罪と金券を配布する事態にもなった。

行政府は平成17年4月より、個人情報の保護に関する法律を執行する。私たち寺院の運営にかかわるものにとってなじみが薄いものと考えられるが、近年の寺院運営に、パソコンを導入して、寺報をはじめ、経理、門徒台帳、過去帳等をデータ化しているところも少なくない。その上から、寺院も個人情報を扱う業種です。もちろん、各自守秘義務で、個人情報は堅く守られているが、この4月より執行される個人情報保護法は、今後、情報を持っている私たち(寺院)が、どのようなことに気を付けなければならないのかを法律で規定するものです。

この本は、情報を扱う企業として、これだけは知っておきたいことを簡単にまとめられたものである。

一例を紹介すると、

ケース1 DMの発送 (取得)

居酒屋の店長をしているAさんはメニューの充実のためお客様にアンケートを実施している。Aさんはせっかく持っている顧客情報を活かすためにDMを送ることにした。すると、DMを送ったお客の一人から、「DMを送ってよいとは言ったおぼえはない」と強い抗議を受けてしまった。

これは法令に違反している。

個人情報を取得する場合は利用目的をできるだけ本人に通知。公表することが必要となる。

(第15条、第16条、第18条)



過去帳から命日、年忌等、子供の初参式、誕生日、成人式等、データ化された情報の目的と管理に十分な配慮は不可欠になる。データを委託業者に入力してもらっている場合は特にその必要は高まる。この法律は、「報道機関、著述を業として行う者、学術研究機関等、宗教団体、政治団体については、第4章の適用を除外(50条1項)されていて、これらの主体は、安全管理、苦情処理等のために必要な措置を自ら講じ、その内容を公表するよう努力」となっており、個人情報の取り扱いには慎重な対応が必要かつ不可欠な時代にちょっと読んでみたい一冊。

札幌組寺族婦人会創立40周年

－「輝け、いのち」のもとに－

昭和39年より、様々な研修、親睦を重ねて活動した札幌組寺族婦人会は創立40周年を迎え、去る12月7日(火)札幌組寺族婦人会創立40周年の記念行事が催された。

心の不安定な時代にすべてを乗り越えて助け合い喜び「いのち」を見つめたい、そんな願いの中で、5月より40周年実行委員会を立ち上げテーマを「輝け、いのち」と設定して準備をしてきました。

午後2時、札幌別院の本堂において、会員の読経の記念法要が勤修。その後、本願寺札幌別院山内教嶺輪番の導師による物故会員(13名)の追悼法要が営まれた。

引き続き歴代会長に感謝状贈呈。又、生駒孝彰龍谷大学教授の記念講演をいただき、改めていのちを見つめ直すご縁となりました。

午後6時、会場をJRタワーホテル日航札幌に移動し、近隣組寺族婦人会々長、組内の法中、寺族婦人会々員の方等総勢65名の出席のもと賑々しく祝賀会を開催した。

若いパワーが炸裂した「なでしこ会」のマツケンサンバ等、和気あいあいの中に寺族婦人としての決意も新たに充実した記念行事となりました。

なお、記念事業として、災害義援金の寄付、本山へお礼参拝と研修旅行も予定しています。



札幌組寺族婦人会 創立40周年記念 平成16年12月7日 於 本願寺札幌別院

「えっ、お寺にお嫁に行くの？」と周囲の人に驚かれ、「頑張れば大丈夫」と信じて、全く未知のお寺で生活させていただきご縁から23年が過ぎました。住職の念願でありました新寺を現在地に建立して17年になります。当時の平岡は、やや完成された新興住宅地といった場所で、不意にお寺をたずねて来られる方も多くいらっしゃいました。

住職は法務で不在のことが多く、接客や電話での対応は坊守としての私の仕事で、ご門徒さんの質問に対し、「正しくわかりやすくお応えする」ためには自分自身、学ばなければならないことがたくさんありました。住職のすすめで、子育てのかたわら通信教育で学ばせていただきました。(修了まで、なんと5年もかかりました。)

お寺での生活は行事に追われ、忙しいものですが、ご門徒さんに助けられながら努めさせていただいています。どんなに忙しくてもひとつの行事を終えた時の充実感とご門徒さんの笑顔にふれた時の喜びに支えられ、頑張ることができると感謝するばかりです。

慌ただしい生活の中で我が家には、ひとつ楽しみもあります。それは、住職の趣味の家庭菜園で収穫した野菜や旬の食材メニューのガーデンパーティー！戸外で風にふかれながら楽しむ食事とビールとおしゃべりで癒され、リフレッシュしています。こんな私ですが、今後共、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。



廣大寺坊守

佐々木 智子

う ち の 坊 守 さ ん

嫁いでから

早いもので、北海道に嫁して25年、篠路の地に寺を構えて18年目になりました。故郷より、もう、北海道での生活の方が長くなりました。多少、雪かきがうまくなったものの、それでも、まだまだ、北国の女にはなり切れてないように思います。

見知らぬ土地で、頼りにできるのは、住職である主人と親、兄弟だけという心細さの中、何とかここまでやってまいりました。今では、檀家の方々、子供を通じての友人、華道・茶道の同門の仲間、職場の元同僚等、私をとりまく人の輪も大きくなってきました。

坊守と言われましても、たいした事ができる訳でもなく、住職の手助けをする位で、未熟な私としては、子育てをはじめ、常に自分自身に問いかけ、迷ったり、悩んだりの日暮です。ただ、ほんとうに不思議なご縁で、今、ここに生かされていることをつくづく、喜ばせて頂いております。



浄土寺坊守

佐々木 祥子



ニューフェイス

札幌市手稲区、真宗寺 打本宗明です。2003年の秋に自坊に帰り、住職と共に法務を手伝わせていただいております。

1980年6月29日生まれで、現在24歳です。お寺に戻る前は、京都の龍谷大学で勉強しておりました。その龍谷大学に行く前は、手稲の地元の小学校、中学校、高校と18年間手稲で生活させていただきました。これから先のことはわかりませんが、自分が生まれ育ったこの手稲の町で、未長く仏法に関わっていきたく思っています。今後、皆様方と顔を合わさせていただく機会もふえると思います。そして精力的にいろいろな活動もしていきたいと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。



真宗寺
打本宗明

昭和49年10月26日生まれの30歳です。

この度、札幌組 善住寺に入寺させていただき、伯父である住職の許、法務に従事させていただきます。

昨年4月まで、9年間 本願寺札幌別院・北海道教区教務所に勤務させていただいており、札幌組の皆様には何かと大変お世話になり、またご迷惑をお掛けいたしました。

当分の課題は、皆様にもご心配いただいていることと思いますが、体重の減量・健康な身体づくりです。ですから、もし皆さんの前で人並み以上に、食べているところを見かけましたら、ご注意下さいますようお願い致します。

札幌組の皆様には仲間入りをさせていただくこととなります。何事も勉強と思って精進する所存ですので、何卒よろしく願い申し上げます。



善住寺
藤井克行

おくやみ

大心寺第2世住職 名和 晃心様

法名 圓真院釋晃心法師

平成 17 年 3 月 9 日 行年 73 歳

フリーコラム

同朋の発見を

打本 顕真

ある僧侶研修会の後懇親会があり、その後さらに飲みに行こうと仲間うちで、スナックに行きました。座っていると、そこに働く女性が私たちに尋ねてきました。

「皆さん、どういうご関係ですか？」

同じ会社の上司と部下にも同級生の集まりにも見えなかったのだと思います。そのとき一人の友人が、いたずらっぽく言いました。

「これみんな、商売がたき同志さ」

ある意味、言い得て妙だと私は思わず苦笑してしまいました。

仏道に生きるとは、三帰依に生きるということでもあります。仏・法・僧に帰依するのは、釈尊以来の伝統です。聖徳太子の十七条憲法にも、「それ三宝に帰りまつらずは、なにをもつてか^き任れるを^に直さん」と、三宝を敬うことが勧められています。三宝とは仏教の別名であるということもできます。仏宝・法宝・僧宝の三宝は、いずれもその大切さにおいて、同じ重さのものであるとも説かれてきました。しかし、現実には最も軽く扱われてきたのが、「僧宝」でないでしょうか。

精緻な教学の構築に比べたら、教えに則った教団論、僧伽論はまた未成熟な部分も多くこれからの大きな課題に思えます。

僧伽（サンガ）とは、同じ教えに生きる者たちの集いです。言うまでもなく、浄土真宗の教団は如来のご本願を究極の依りどころとする人々による組織です。阿弥陀如来と名告られた同じ親のもとで、浄土への行人として同じ方向を歩む同朋の集いが、私たちの教団のはずです。

しかし、歴史上の教団は必ずしもそうはなりません。同じ教えに生きているはずの人びとが、お互いを同朋として発見することができずに、苦しんできたのです。近年続発してきた差別事件や不祥事は、そのことを如実にあらわしています。

大きな教団がぐるりと変わるのは至難のことです。だからこそ、私たちは組という目に見えるところから、僧宝成就の道を歩みたいと願います。「商売がたき」ではなく、真実の同朋として出遭える場を、「組」のなかに構築してゆきたいと思わずにおれません。